役者評判記

チ13
3849
5

元禄十五年
往来二味線
手13
3849
5

帝國圖書館藏

假着二挺三味線

月録　　京之巻

心の弱うけ出ぢり
志ざるひの見え

心の猿うき材ざる
色宿乃亭主

心の愚男責出
大海月の板前

心の闇物使乃兵に
美てんなけつらけ

帝國圖書館藏
移 13
號 1639
巻 5/1

嵯峨(さが)の栄花(えいぐわ)の隠家(かくれが)
小判より手並(てわし)のつよさ太吉
花より実のつよさ美少人(びせうじん)
欲(よく)より実のつよさ恵光(えこう)持
祇園(ぎをん)は栄花(えいぐわ)の遊(あそび)所
庭前(ていぜん)の風が芸子(げいこ)の気儘(きまゝ)
紫帽子(むらさきぼうし)が女形(ぐさ)の花(はな)
手(ぐ)代(?)鏡(かゞみ)に移(うつ)る若衆

京大坂芝居惣役者目録
名代 都万太夫 座本 古今新左衛門
名代 ゑびや松之丈 座本 大和屋甚兵衛

▲立役之部 十一月八日五十目也

上吉	坂田藤十郎	万太夫座
	山下半左衛門	ゑびや座
上上	中村四郎五郎	万太夫座
上上	嵐野次郎三郎	ゑびや座
中ノ上上	桜山四郎三郎	同座
中ノ上	古今新左衛門	万太夫 座本
中ノ上	若林四郎左衛門	万太夫座
中ノ上	山下佐五右衛門	ゑびや座
中	文勝養平吉	同座
中	三尾孫三兵衛	万太夫座
中	浅田善右衛門	同座

巻田九八郷　万大夫　武蔵国
沢村十郷次　万大夫　同産
中　筒井伯六　武蔵国
中　玉川係三郷　同産
中　山田権八　武蔵国

▲歌假之部　北六十ヶ村九十ヶ

上　巻川武左衛門　武蔵国
上　三笠源左衛門　万大夫
中上　大泉辰右衛門　武蔵国
中上　泉山十郎左衛門　同産
中上　山村長兵衛門　万大夫
中　坂田要右衛門　同産
中　笛山十兵衛門　同産
中　秋山泉右衛門　武蔵国
中　福田勝右衛門　万大夫

▲乃外之部　北九十ヶ村四十ヶ

上上吉　金子吉右衛門　万大夫
上上吉　金沢文平次　武蔵国
上上　山田甚八　同産
中上　天野文右衛門　万大夫
中　天地治兵衛　武蔵国
中　伊治小十郎　同産

▲親方之部　四十二ヶ村

中　治八　武蔵国
中上　稲葉孫四郎　武蔵国
中　松山彦右衛門　万大夫

▲乗車方之部　四十二ヶ村

上上吉　小久右衛門次　武蔵国
上　玉川千之丞　万大夫
上　橋本平助　同産
上　久保田三郎　武蔵国

中　弟牛久田郎　[illegible]
▲弟安方之郎　[illegible]
上吉　芳沢あや免　[illegible]
上上　[illegible]千寿　万大夫
上上　俵屋十次郎　同　座
上上　山中かちん　[illegible]
上上　能本屋三郎　万大夫
上上　富橋おのへ　同　座
上上　熊川竹之丞　[illegible]
上　嵐　[illegible]三言　万大夫
中上　おのへうこん　[illegible]
中上　[illegible]波[illegible]　同　座
中上　市村武ごろう　万大夫
中　[illegible]田大次郎　同　座
中　富尾[illegible]　[illegible]

中　山下[illegible]　[illegible]
中　[illegible]弁[illegible]十郎　万大夫
中　[illegible]　[illegible]
中　大和川相[illegible]　[illegible]
中　山下かも[illegible]　村上[illegible]
中　俵屋[illegible]橋　早川[illegible]
中　[illegible]弁[illegible]町　[illegible]七三言
中　長橋[illegible]　[illegible]
中　俵屋[illegible]　[illegible]
中　[illegible]田政[illegible]　[illegible]
中　今村[illegible]　大和川[illegible]
中　[illegible]田七十郎　[illegible]
中　[illegible]松[illegible]　[illegible]
中　[illegible]　大和川小[illegible]
中　今村[illegible]　[illegible]

中　山中松ヶ丘　一本かも川ゆうの丞

▲弓元方之部　五十六ヶ寺　万石

上上吉小雅川宮原氏　武蔵

中上　吉岡りとめ　同産

中上　弓頼ゆふは　同産

中上　松本友十郎　五十人

中上　山下小九三　同産

中上　中村大蔵　武蔵

中　おの八雅之助　万石

中　五川保久　同産

中　坂田頼之助　同産

中　おの川義之助　同産

中　岩井保右郎　同産

中　長田常盤　同産

巻雅　大和屋長右　武蔵

東山の義経ゆかりの品々

唐ぬりのそもりのうの姫ごぜんも義

さておひのうの仏像も就つき珍しく

掘つて年ゝく寄年ゝ年ゝ年ゝ

おしのつの女も常ゝのうの風ゝ

ゝのうの布子もいつのうと義経の女房

三年わのうの五郎の親の方ゝのうの先祖志

だるとんぐ・義とんぐ・義とんぐ

関ゝ新蔵の方ゝ五郎の方ゝ気ぐかゝの

仏ゝ五郎ゝ義世仏者ゝのうの斗ゝ

一ゝ・ゝ・ゝ・ゝ義ゝの者ゝ

新人ゝ中ゝ中ゝ女ゝ

橋の義ゝの働ゝ

ゝ中ゝ

かせ

いかにもわらべつきでも極え
下女やど紅裏とん女のつ
ゐも袖ゐくあち風よ惟子裏れ
風ゐもくまつど大まてたりさんそく
にかてもゐ色びとうもいつゐかの
ゐとゐりたゐの男れ清水杖寒まで
世て位ゐもりこゐりゐ色身長ゐん
ゐよ豆燈の種とさくにいわくいゐ死
ゐたりこゐ白田宿のかゐ業和響荷ゐ
よ迷もけゐゐ豆病と金猫りに気と
極て新仕ゐいづるんとゐりどくひ
世業ゐりの一月かたうきゐりきりどた
わそゐが極と浮世楽沖とい大長ゐの
れ変とまりさそゐそゐ茶屋て業
表ゐんわゐとゐけがや本ゐ仕と

飛もうゐ大人とゐ御ゐ月の事と
そこと豆出遠よ糸めと御てゐ業色
ゐれでの一変ゐ仲の糸といゐ糸ん
袖や一げれ家きゐど折ゐゐ豆
のとどて御わゐ糸ゐれとゐつゐりてに
糸ゐ糸といゐのと縫ゐと見て豆出
て事て色ゐら迷ゐ一ゐもゐゐ
ゐ糸風ゐ糸ゐ世ゐ人とうゐゐゐれゐわ
不沙月掛の遊宿ゐ事ゐれゐ丸
のゐゐもゐゐまゐまゐ寝部新そ
れわゐどゐゐゐげゐゐよて豆ゐ色乱
ゐ縫ゐてゐりゐんゐゐ豆ゐ喜ゐ
りてゐまゐゐゐゐ出事ゐとゐゐりと
ゐゐ山商賣ゐゐゐどゐゐゐゐてゐ
ゐ買ゐゐゐど生ゐゐゐての時ゐゐどゐく世

四条ばんかう
ちうの紙の八
ちうの名ん
ちうの名ん
四条
八条
ちうの名ん

けのぶんでまるさの男が女方利益
みて宮やひとりでは嵐雄氏曰ちる
てのめりつの男ちゑぶ子たわぐら枝
有野男より此大合をごれ出みうくと西
いてのかに客気といて伺澤て後ひか
女房と呼立ちあれ無とき面ろぶのれと
仕合のぶんとおろふかれうと性加をず命
まぐるとしおろいとつをてをの程て美人
そを程大事此奥毎ぶ約よいをて
夢ろをつそあにわりくにも屆て出よ
と無にやてひおと乱出ぶそひっひ立
考ばひ家のてのわくぐの利義の
みておろも美れろでもろ男ふうも程き
美つをぶろうをつろとてをのろ
いとをぐて庫あひは張紙

年ぶとうて出れ流まおとろるりう
どりと出付そもくひ高奏仕ぶ美
たいあるとまかるりけ合点とや法
のひんでそわそれ和と折ろ川ろ
いでをぶれにもおちらづをきにるぶと
紙入ひろうまを世ぶでのや抗ひ社紙
とひらぶそを女房たつんで美を
やもわぶどうを赤ぶ風俗
うをもふいぶをうもれて町ぶを
ろ屋のあ川社ぶくも気のろ
せんをと始てのあ情をうを世ぶ性加
やあ入られ社を性今日をやにを立
をてれるふりんとや逆もあうるぬ
ぶつそろをまをまいも惰ると美入性加
いめやを社を性ぶうをぐにも徳井

座敷は九分は。これ本膳。何も此作つてゑん
うと申せば。やはり是が気に入つて蕎
麦切り男と偏屈は作るとのみ申すのみま
せぬぞと。あまりせねとて大事なと。余りに
りてやさしと。世にはまるぬすりやむ
さし盛山などは女房利発な男は無いでゆう
いけなりて。又男利口は男見ばかりでお
くらを連のやうに此隣のてまながらを
ありべしと三度にやつと寄合のおつかあり
さ男りそ為ぐれ裡にちつ法事と風と。
珠恵酒のもつのまで下のまつ好む
そおかまの生ん碑出し料理角樽
長日市もあきどつけらき太白なき捨
此批識見ておりゆういらくの自慢
座。大きさ為にされどもさとがまへて見れ

もでて気まぐれの相談をかうこうて今の座
切りけ烏賊よ浅草若とわらび蕎麦茶
碗よておよせをいひよ浄と弁に生肴と
角切わて先細の鮎とそへて出せいふ
座敷は仕掛そうの天地ぞ残三千が地が
小判二百両にあると去るどや。あれ若衆とひとの
で十両くらい半年ゆかりと申す世ろの
今の為にわしらどおもかつてゆきとし。別る
と月のお家が始めて気が佐々木われ我が子ん
れ話売りやせおめがかへ猫と申す画もなる
よとい。又承全もなる其大略にいかくらい
今もそうにもおきつの夏座
も気をそろえまたれくとの母ら仲直
のはどひいてさわそうむやうつなり此
ぢうく後と為されなんと気を付る

寒やとござりひかへてゐるはづこぐらかれば
是からまへはせうくと煙草入安宅も三番
て豪遊とうかこ世が是うけのとつて
起きをとらんにみとふぐのおどろびて
色々やどをあ迂世来て先程よりみ酔醒
して是紀のだつとあつめのとうんとだ
金にうつれ丸薬一粒呑ば巻のふる薬
との汎月満からどつてしよふ覚なへ
やして是へ又酔ゞつの大きとをめくさも
あるべし此が気おうに酔まとし
うきどうつてどうしにん和みをとれば三味
線ましめのふくしと大笑ひ見れば酒が
酒のこぼれどくへいことのことも後へ酒ま
も一つまれ響鼾もまづ升て出まる
く魂ももうえ出てござんの空過ぞ入

あがきへ初めくりなまあ酔れまあ方へ
のおつ一ちはき二紙と新て来とむ下
秋未ゆくしてあもあく大へ海うの秋よ
おいつうすまと茂と大へからずして縁
たふらしくありておもしろく立れ
覚るやそておもむしげづりひとて我
宿へ掛まんでせうらまで縁へよあなし
衿をのもあへ世ともまとなまうして
かよ河の瓶もかれ徳川様の子げ
て此和に豆まいもまあまだめくさ
掛先をまてわのけよと也ま筈わどの
隣と人分ば百月の化は一挙ん一つもぬ上を
を金に大へすみへ一数よしやみ和して障と
けまうどうくせたとうけのへねおれに程
めいろ掛もの着きうしもへおそれ

きん
けつろ
みず

惣じて遊女狂言といふ女形作付を
ごしまめ名人。枕草紙といふ本によ。
もさのごと枕師立の月の傳統と云
おの道ようごとく上霜も十そ貌し
て此趣ぐあれ一秋とあさ方よりかけて年
中のわそびもの西へ西のおでお稽古
してあくやうのと魂たもよくゞるれ。
神楽堂の奇柱の文れあまるてし
手深にまけどと十盃三ヶ人よかくめ
置にいふとさくれ。あだ名乳かぎ三役者の
評判ぢかるでおりしろ中とうけられ
やそろうてらごりまゞまれざいろ
とりそま。玄付作三六粋なる人
比目よ人そもおり　かゞべし

立役之部

上上吉　坂田藤十郎

◆坂田おゐんげんかゆくてるり男 柿谷坂田氏と申へ。
和国傾城仏の原の若かりまちりの若へ
当流のて中都京の役者立ての役
若い人の藝れいとこそ見てわびつひ
ある一説都人世表永久家柄よかるれ
三位立度にゆくまされいのとかぞしと露通し。
わくれてあいまくおろわあ頭で仕様の
藝三ケの傑作緑よかるふと立てもあへ室た
森木が言よおぢひへわるまの◆ 前藤のふさはれ 若衆方男出口
案升にぶりさいておてかと言うなる風かか
に役者ぞなるへのうたおもろくいやぬ顔の
ひへのの役者立がおほ衣かもおち足なと
で振山男のあきにいひつきて仕人の右へ

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲東の角[illegible]

[illegible]

▲大きな水男目

大会仏法ニ言葉を民弥と云ふ風ニ実の世
ゆとゆりうへの方の弥を弱て言葉の町へ
いさんにて楊とあのたてしひとり程ニ言ふ
ふもいれさまでなのあまことれ役者に
てみよとてとうて言葉ニ言ふ合はせまはら
とうとたにをうて ▲高井男曰ものあさ男曰ものあ
のがまてこうとやんれたのいとなでたたをたて
ふ長長ものをうてがたのいたてたをたて
いうあうてことふ俳列ないてが楊がつこて
言ニこりれがこてものんでとふ俳ぶこるの
▲月間のかこの方みあるの男曰先に紙ふ俳のやつ一流みて
ありしびこ俳ものあうふまあ言葉ふそあげ
やまるうを俳ふおちがれるの俳ことが
ひりれたてをりてうふ俳ふ小雑
とあらまて俳はよあうてあしりれ

みふあうてのうりと打つあうあれ
にてをくようるゆ寿ゆ和南風とうた
ておたがたわて月でたしとをとがをと
あうをでをうてあうどすいんど南風名俳
のあてをうあうをのどをふ俳新付をを会
れをんどこの付表ふつとこ一面り林慌
てるのうんゆをた義会とふをでをまく
まとあうどしびをのあうからうを俳ゆ
ゆも生業うてこのどゆうくををんれ
をてふ俳て大あうとふいうふとふ風ふ
で ▲寒治元中 色斗ありふいふ
上上吉○○○○○ 山下半左衛門
▲楽雑とふ小河て世とて古今未名有義
武ふるゆありふ山下一流の仕出し言ふ
にてうく軽ふゆうて言ふふ俳四

心
万年座
立物之部
立役浜田義郎
立役中村円之丞
乃介役子供方
色入もや座
立物之部
立役桜山円之丞
立役市川半右衛
乃介役子供方

粹ぶ師匠は鼓の名人の好なれば、ひ
粹ぶ師匠は鼓の名人の好なれば、ひ
結ふ芸での人美妓世い色ひ乃の
ゆとらひつでゝねまるまとてあり
ろぶ三千さうとゆ雅のあい多人
元人芸教わりて世名より判月ぐに整
ありとりあゆとせられもれくまつり
ひとりとてんかとつのあいとよ者や
（業師寄せ芸者もうの芸かの日ことや稼つわるのとこのそ）
さうつておてわりつくとあゆとせられてを
もれくようつりもんかとうまるあと我ふ
ゆゆる者あ者のおでいるをれようつ
ゆゆ芸の世い芸の南流の左るのうつこつ
とてんかとつゆいとゆゆ方のあれうつ稼ば

てゆうりあんかとうるあいとゆ十にあんん
でゆいまるこうねまるびんや（小文の方うつ書引名目）
いふも稼つのいうとうゲ条にとて
いゆでもゆもうも上まるまやけい世い芸を
ありこうつるも一流ゆゆ仕出ぎおうる
ゆの世い稼芸の上とゆ粒言よ坂田及の
せうとゆ芸十三年ゆと粒の河内
まるこてゆ芸田言ゆとんるゆ
世つ法人我とゆつるまやそよ南おの
ゆと仕組いうこゆゆいひまゆうく事ゆ
上まるゆ粒んせてゆゆうる及と中稼の粒
ゆうゆ中村氏いとゆこの時七三五粒ゆ
とてのゆとゆいて世ゆんせまるゆみ
ゆのゆ稼のゆゆ稼もゆうるゆゆんん

かくて此度の仕打成代りにさへ今ハ御役にこゝ
のまゝ先大分ぢやがわいと思やる程で此
催しのうちも出来ずふいとりぎんみの別
おいて気分の勝れ押やめが▲見物の衆曰尾上菊五郎が
二日や續けに大太夫まゝやいらぬ禅門
の肩もつが根でもつてござらぬそれを世間ハ御存
此下の狂言が坂田の大役でせられ父勇の
三ケ年も其やうな事でもどれ程世ハ坂田よ
越さる事を見ても押しでもなり世のハ坂田が
土手らるゝ其が德松や▲掛乞曰贅せんの仰とな
いでもけいせいの身ハ坂田が去てとらるゝ先が出来ず
の此方のいとおしぬき流よ其世七五三が大ふへ
此大成桐よけさこそ狂言年の此世二は
戸様ハ傷る嶽れ付けて流る家も出来ず
鶯よ流かぞして皆此よ去て出され合手の
無りよふうつまらぬ年もわつていらぬ此との
も理屈のこねまはしふ家それ程も合
らい詳者が今は家主のつく家ぞ今
ゆゑ嶽ハ仕あて何れか見ゆれねばおかんや
鯨絹ハ衆ハ今とえん▲奈良男子曰仕事を
其とびまふとおのれが若よ見つまへ主人の
身あい掛けて行やりて家にお家まで
孫とおしも其年の家として見はおゝまを
仕打をもやうたけぞ…てもんはう脇目は新
大役ともでも出来ずできたがまめらわざ
で肩分に寓搗て大年中つくまりけるが
ふ狗ぶや相成桐流る行儀左と七三
ぬのそれてはいかでぞやいかで一座よいく
あんなも成桐流るハいかの力でさへ去
ありがたいづへまへ一いと思召大悦め

たしまりでもあるく△こゝの其元方よりいづれも様と
おそ安うて見物のあるものが中にて
役がら太夫の揃ぐといふの名の職の事で
あるものぞれと云ぶちていろくの離ごとあらへ
るかのといふ物ぞ一声三のうちけの女の生
本寺にば道成寺とおそ序びらきた所執
の出端てりとたとうでのやうにすがく
してあるく上下九つか笑と濃艶次に中
三分て立役小太の上下といふあつぱれ出る
きく効許一番の立といふてもうりくぞ
女形おもしろいといふがけもあく出来おいらが
せんせいうくそ女形ともいひたくとそとうで
姫にはまで〳〵いひそ不おゐてれ〳〵此物語
ゐそ一〳〵とおりし此程女形の太夫の九本
[illegible]

[illegible]
武道ならぬ所事のあるよゝ上手藝案に
女形がうて出る茶碗の事を出るにつひて
まずといふても毒とのまいらと氣ぞと
ありてよいひて女子の立役のでのめにわふ
てそまいまくて上ずみのいゝ評と申すを
うりのよいとうもどくいとぞいふとうく若き
姉よかりとよい今の家風流の名が上く吉
立役の立役と評中此様男でも仕合く

上上 中村四郎五郎

△未申の方の太夫の名といふ〳〵其の舞此新
女形立役男出て日
りんせい古来定産より始て此角ま立役
まそてまなさとあるの世にかかつて出る此若衆
あづまでどく〳〵まで立ての極芸〳〵時分
づかしさ十五年此役者を抑しし此風藝八

ふかとこるれ[illegible]わまこ[illegible]ぶ[illegible]来てい[illegible]ば[illegible]
にをつ[illegible]こ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]と雑俵屋の梅だが
浮判せ[illegible]ぶ世に出の月桂こたこ知恵
隠れ年[illegible]や八十五家の法令[illegible]ゆと
うそう繁昌せ[illegible]ぶそれ[illegible]ゆ[illegible]
とおげら[illegible]今京にてのそ後者と
まんまとゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ぶ
のたまゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ぶ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
のれ新程よれまし[illegible]手とそ[illegible]
八年程そ内大坂ゆ新のそ[illegible]
京れ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
京のゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
とゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

月とゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
て弦楽の流とねさそ上と京のあでわ
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
拍弦楽流ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

お国やとの事そ為あるしゆゑ也。ますやうな才一代の狂言
名ちらあそとなくさくらんせうくかも
ならまりしき前の為に仕出し。芝居風の元祖也。
またよろしく都で世間のうちさ猿わかにわれ
あかじ。まつりて万太夫座に三年の勤めを
評判よろし。数々女方芸の中にも狂言うし
つまみ気だてそぞろにて来てひらきその山あむ
其時のむかしはなしまうあとてはなしぐおりそう
わけても此月八池の屋鬼がげんとせたら
いさかひ去年によりし。極上の為の風雅至極
大坂の仮月扇のわけ気かはりて芸をや
とのみて夜のいの金とありて気はうかのべる
のさおかしき。二度目のわうのまつわりの
さんがあらは気とうきて子とさつ今のうち
よ大坂がはなれの別がひのめはなし方よ
せんくとむでおらて此の趣の方とう上手と
さうしき気まり。さつばり上ゆうさらく
ようらうて格女方かわかりて気のかつての
うちさ去年によりし末の今女形の方もるのまま
まて娘の事を此出しおもうまかのやうの心が
がつてよらうて娘や気の有方の方も気になぐ
はまぜはしやうや気が居ずにもふ今一度の気の
あとは大坂の二三年にやつてみて体も心
てのあの気はよ一はもわと有かなのいの風れて
またの方気がある中勤の女形も中身の芸をおしとう
上上 みぶとうぞん 京下り男同 喜村半三郎
去年中いれの見所はなかつたとの
とさいつてうろの扇屋の芸が出来まで
どうもくそまあらちも気のよい気がでのれ
ずんからまやのとの極めかの方とおもつうまさて数

ゑんせんが縁のれの男がらぐんくまで爰でおのまいて
満足(まんぞく)にはおもひけれどもやうはよくもなきとも
なかおにやのやさ男にはかまりしもあそ女中
方にはお悦びありながらまのまつりて是の
どく実の中にいれ家経をまつりてよい小の
なれびは上あまりて義にも幅る所風実の図み
名人実大坂九十あまで人のもく風をも数わり
藝がらも此人の気の男を勤め仕合男とやらゆへ
◆行いとなく八白 新参者の気の男を勤め仕合男がやのといふ
いれまい難波の座本植よろしく新地の者
ぶおと言ぶ下て去年中二三の藤の出あるぞ
内證のやりやうくよくで当年此座へおり
つれ人が仕合男がにせ座本まとげだと
おそて第一世上へ揃当てぶ仕合男と
いふ物ぞや扨当風の実の仕と名利ちがい
あら右風なる実の気にとおやの心のので
あまり澁(しぶ)きでぞ和ら見し風かりしわきのが
あどの義(ぎ)みかとてざまといふわれいかりても
中々おかやら世そいから時かどれがら立
あつまかたけん男がありて後藝は功者にてよく
いさまち事ゆまて権者の男がねけいでよう
びずる◆社の縁 かり月出のでつかうめ出でまする世にれ立
もせねまへくとねかまで上あ膝く座本につよあられ
一年や二年当年中山もとまれ人とそ気の風が
にぶ仕合男とあればわかでも山下ねも内證
までくもの当そむにも座本座本お体とぶん
あらば身まぬも仕合といふかなもずかふの浮
銘らとものあらや当気つかるよりの親よつま
つゞれとまがるのかあやまり言みげに見い
なかなか高名にはあまりの新地でいかんれ

いや〳〵此人の種とあれども此の出来でござる此
上も大出来ておき〳〵あいわすれとあり又
て此風わすれ行てありしも惣大事がね事の
めがねの上にも大事と軽い事役者の上手せん
まく素人芸での上役者は大出来で大入の大きに
にそまり義太夫と事でも惣大事によるがねけりめ
でいかゞ惣芸の名ゑねけれどねけれのせんでござる。
先者の外をあげとあつけ此度は母親に善悪八行お
にゆ宜ありとよ外あんずるてもかつての年もよらり
太夫によつて中にも錦まつたるありましたあふ
てさ三近とふさしまつ又は男女の見分がたくて
作者の名もあつめの上手でござる。当八幾年
大坂にて近年名代の上手の内大にたいそうの
継母かちの義太夫村上にてそれから此義太夫
あかんにそも当年にての義太夫がなのを大入
おそらく此の義太夫役者でもちろん大入り。桜山庄三の
芸の小せづくのみにおいて。門坂の実悪や下
世話事と会づらまへ役者を見合し其流のとおり
ど目ばかりおとなしく大きにはより。役は器用者え
里方に毒薬をとの家中で時自害せんとせう
るゝ女房手まし。未だ陰気の種の女房よむ
公家方の女房でも此の若きの世の中に出
てらし。其御心式人の義太夫役者とて実と出る
にせつく ゆくは妻やりと実もいろ〳〵ありの。
さてとん為りと云てさわし先人冬にて
茶利事の祝着いたしてござる

中ノ上上 桜山庄三郎

▲ 嵐いやはらさは師 石州の浄瑠璃の弟子なる者也 れん
中にて大へ此の芸当るしかばやつの名を桜山に実事と
此中〳〵三役の若手の周到ゞ勿りも先く

かくれくちとおがミ丸おわつりをといてさらすと。
そのまゝ小雅山がりの二羽の主より法義はま
どろいびけるそ孫まで二ふはなくでさな下に
引にて主なし。ちと補剤ともらいておの
わくりとおがさなふさてんおかれ丸なき歳よなかり
ねまぜけすの。家来が申ふるよすぐ二藤治殿
すぐおつさりと来てこそわが身申うものさへ
▲秋流らしき無類の目法義のわんはいと薮医者の
なかりてぶんにてきらふ申ふさいするとりふ
おがわつりのぎや藤治がおさ尻扨ると孫ゐる
わんあ歩汲なぞん今おわらはくとさらするや年
おの今徳丸とらゐんるとさていかさ人はおの
まんなぐし丸義ゐでおやさそ凡は肝心の差すえ
えん今のとさて義ゐ小補薬とわでもよいわ
なかつおまきてりんくれ扨やおまへ男一
ときなんとて申く師匠のおわ義ゐ縁
悪せぬ生れ付ぞや。ませ人息子が大儀よ弟の
きて死のわり。縁中とはさうかつ時節が申う
にいささせやうな藤治でゆくらぬ人は言
陽らしくらせで針一本で進足てれと見
せうたる程で差すで悪人先と云時は退えらふ
で今命なりさえ人見教えせに万策の申よなりて
れ今人はささをとまの云付によつて付とも事い
刀ぶる中衛をおれりまもりで二の名をせる
付らるれい云ふ時は八丁堀の言い義仲め
そのさまらが肩端の世の人の出来ますと後は
きまらが兎真斗付細工のよ老人傾ず
扨はひらりまと梅二の智りふいきやえ
思ふえ急扨そちがやうなやさへ藪医者で成
せつの申をは毒薬と調合て申すとこわ

中ノ上

▲[illegible]のうつり[illegible]三日　吉幸の産中に産で吹お
出でて[illegible]新春の産中に産で吹お
[illegible]ど産中に産で松方年とも松
[illegible]

古今新れ出つ　勝[illegible]

中ノ上

▲[illegible]の方より[illegible]日新[illegible]
[illegible]

和田左兵衛尉義盛の子男六人ありけるなかに
義盛は子細ありとて所領をあたへられず
程の侍なり　義盛の祈りの為に
あらはれまかりて法華経を数かへて
にて壹僧侍の所　おのおのとぶらひ
てをくべきよし　おもひ
やうしゆ　せんとの義のいきとをもつて
よりて　町中の評判に大きなる
中ノ上　山下伝兵衛
▲社のあるべき所　五度参詣　日々人々
の評判むきいろ　新社の図　座敷
大きなるでらに　別る高野山と
法華堂とそなへられあり　高野山
むりと　人数をもて　公家
おもひこの方　高野山
に　新参　こちらふ
ある　まうし　公家
第一　功者　祈り
の　信　三回　お供
ぜんれ　信　や
中　京清義平左
▲大世のうちの　五度参詣　公家
の　大きなる　大世
大和　そのうち　そ
あるべ　でおり
中　三角弥三左衛門
▲大世のうちの　中ノ日　信より　町人
永代　永代
うち　外一寺

中 後田善右衛門

▲たぜのはかを年ごろ見わげたのもとうめいて後を高らかにそく人よりよりの男じゃ高三の弟りまとうと七檜の上で右宮七ちよ者ちよ者ちの上後じ人れ森の

中 若田九八郎 義人

▲やりのくさうの山人さぶ〜気もきなりまして面白ものわげやの下男ぞとくうつまり山人名名名名

長代年長ましてあれる長まてもとと言ると長橋

中 沢村十郎 沢 伊豆国

中 筒井伊六

中 玉川源三郎

中 山田 橋八

▲たぜの中分同山四人のお元かちろう兵のめ

わるとそ外何のそもわれ後のまつと付ちゃ兵人

つキ組長て出の家毛ちの

敵後の部

上 若川武左衛門

▲たぜのはかの方ちろたまもの杯山人実の年れの後れ

たてんせれ男先てかぶくびをたてはる

お後長ぞき実のれ方はかもとうのあ

わるとそ実年ひろ兵方とかれむりか

者ぞ浮判ゆ様ちゃ武左とよとかり

本ちる人気実の仕れ出れてつめ合をあ

まてうぶつるわれ人とたて人ちるひお

わるもりそのあ兵一切共兵

外の兵方とかくぶつまるれおり覚

せれ家ちれ都て長せれ兵わ流

山下ねとのつめ合ちゃ和組兵女のおのち

ひりる兵長ぞもるれ人ひりとれおそ

のちろれ後ちたりてきこのよのせふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中上 大森辰右衛門

中上 森山十郎右衛門

中上 山村長兵衛

中 坂田 [illegible]

中 [illegible]

中 秋山 [illegible]

中 [illegible]

上上吉 [illegible]

上上吉　金沢の平沢

[illegible]

[illegible]

上上　山田　八

[illegible]

[illegible]

中ノ上　天野又[illegible]

[illegible]

二の殿へわげやもも人ゑでわげやのそのやたこ
のとびわげなどびわげと中ごろ別るより球
きくびなどびなどいとうるでおい
乃きびてつのてまつりとおいまつりてのの
ひわびでなりてのやらくびこの殿りて
けの世びとよ居きまでくの中ゑ民子孫子
孫とんとそびあれときもへそれとかみてる
きびてわりえるれりわ一てけ十とうとわげや
けりてつけこの者ども家ちりありまま

中　天野
中　伊右小十郎　茂八

[illegible]

▲親方之部

中上　福島与四郎

▲四ツ半方　すんのゝ山人　若村方九郎　端の座敷

町の年寄をせられ　わきてうちわ方

ひろ山人もろ方でわ　わつこげ　ぜんと福島か

わるあられ　仕出ぶと　乱よりのまいこま

ゐよりおれ　山人の御贔屓　ばゝ方五郎　ゐの

ゐてせうまわりて　一番のゆうもいろ　仕

番でなるまへ　のみまそうろう　詳しろ

中　玉山新右衛門

▲若村方ケ　かもとふ日　山人　ちやどわきとうるとでゐ　人衆

喜れ長老　ちやうそう　祝儀　ゐの大

▲親方之部

上上吉　小りん　きちう　次

▲月光のゐ　るとあるそいつ　仕方のゐ　ゐの

仕方　仕義のこの　仕人の　ゐ方　ゐ

つどく　ゐて　ゐよ　ゐて　ゐ　ゐ

しゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

上　玉川千之丞

▲ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

上　橘ヶ平助

▲えびすのあらそひ日　人振情ろ　[illegible]
て大きゝ　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

中上　[illegible]　[illegible]

▲世宣のだご方日　だご方の上ものの方々の方の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

中　[illegible]　[illegible]

▲えびすのあらそひ　[illegible]
[illegible]

実地　[illegible]　大和屋吉

▲えびすのあらそひ日　えびすこの二[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何と字体よ
みさうの
世川ぬさうるぞ
ようわやめるね
せんじめるね
わさかさね
うとんなよ
そまぐや
きてい
いさうろ

上上吉　芳沢あやめ之部

小性格七郎ゞ男ぶりはつまあるやうとんと
ゞ程よ仲たがひ女方の世話とゆきと
芳沢の義ゞりとまるじ大ぶつぐゝんのひ
才芳沢の義ゞりとりとて実あいろぶゞ
初つさらとえんかうまそかもあるとゞ
女分のこまれ山下者と去新入世分一れ
よまるゝ程ゞ程ゞ程ゞ程ゞ程ゞ程ゞ
やうんつゞまやうかもいろゝやうと面ゝ我と
おつまゞ拍子二の部り左衛門紅葉
はろう女分ちもうとまるゝ接山方ゝ
屋敷ゝ舞ゝ元ゝ方ゝ拍ゞびの供ゝ舞ゝ
とりんてまるゝ所とうゞまゞうゞ女ゞまるゝ
に程ゞうゞてゞとゞもゞまゞゞゞゞゞ

ゞゞゞゞゞ

上上　雪消ゆる

やどの面神小性共山桃ゆがみよう他性
仕ぬ物ゆえ山桃ゆがみよう他性
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

上上　清尾十次郎

[illegible]

[illegible]

元の流れの流れ作りの流れ
の民謡酒よりの酒での民謡
民謡あまりの民謡
和歌でよく出のすべての和歌
つまづきなく流義の功名
そちらの三味線のうら三味線
よりの功のいく三味線
上

山かの人

長川橋のと長秘義のの橋
祢の祢のよくの
きまく流れそちの酒との
て明橋そのまの長
流れの流れの奥
もよの和歌の長今
きの流れのしまく流れ

時の中の人のうまりまるのうまい和
よりのうまの出てのまつまるのでどうまま
春の和今春のの出のまでのまの
春の和今春のの出のまでのまの
やの長やの長やの長やの長
長の長の長の長の長の長
義の義の義の義の義の義
とくいとりの仕切りの
りの長の長の長の長の長
年の長のの長の長の長の長
の長の長の長の長の長の長
めの祢と三祢と祢の長の長
の出の和の和の和の和の和
九の和の和の和の和の和

上

仮名草子

佐野木屋三郎

上

高砂おのへ

上

瀧川竹之丞

[illegible]

上

小 嵐右世三郎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中ノ上　乙上　うん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中

春田大炊郎

[illegible]

中

[illegible]

中 山下氣色

[illegible]

中 筒井 [illegible]

[illegible]

中 [illegible] 花桐

[illegible]

中 ㊀ 大和川相之内
[illegible]
[illegible]
寺内ごうまつ[illegible]
[illegible]

中 ◎ 大木行十郎
大[illegible]
[illegible]
一中 村上ごの源 一中 かつら松金弥
一中 浅田ひこ助 一中 大和川[illegible]
一中 早川伝[illegible]郎 一中 [illegible]
一中 浅[illegible]つまし 一中 [illegible]
一中 曽田七十郎 一中 [illegible]
一中 [illegible]郎 一中 [illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
中 ◎ 今村弥右郎
[illegible]
[illegible]
一中 長[illegible]郎 一中 山下かるこ
一中 [illegible]町 一中 [illegible]村小八郎
一中 [illegible]わふよ 一中 山ち松三郎
一中 今村宗女 [illegible]
[illegible]
一中 [illegible]川右[illegible] [illegible]
一中 [illegible]七三郎 [illegible]
一中 大和川[illegible]沢 [illegible]
[illegible]

上吉

[illegible]方之郷

[illegible]川宇源沢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のとて外野の孔雀のどもいとはなし（体言）孔雀なる
ぬのはつかに雅にかたらひごとのまゝに（体言）あんなり
そちらばかりのおつ（体言）やう（体言）ものゝ（体言）ふるまひ
雅びわつら（体言）ゆ（体言）別よりかくばかりなどうまゝなれば
なりはまことのびいつゝ（体言）時ばかりも絶えとゝ
のかたつよりもてなどうまゝ（体言）なれば（体言）ばかりなれば（体言）
きまゝ（体言）ゆ（体言）おぼつかなねまゝ（体言）ろ（体言）たれつゝ（体言）ぬ（体言）
ぬ（体言）ゆ（体言）ゆ（体言）ばかりなれば（体言）ばかりなれば（体言）
こちらの（体言）ばかりなれば（体言）ばかりなれば（体言）
とばかりなれば（体言）ばかりなれば（体言）
れば（体言）ばかりなれば（体言）ばかりなれば（体言）
ても中くらいなれば（体言）ばかりなれば（体言）
大弘（体言）ばかりなれば（体言）ばかりなれば（体言）

中上上 ㊀ 右畏のことめ

かのこのはなでいとはなし

きれば（体言）ばかりなれば（体言）ばかりなれば（体言）
ばかりなれば（体言）ばかりなれば（体言）
ばかりなれば（体言）ばかりなれば（体言）

天和元年[illegible]
[illegible]の名木雑伝より抜書
て紀伊国[illegible]の金[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

中上一　中村大蔵

去年おとろへ

[illegible]

一中 玉川源之丞 一中 荻田[illegible]

[illegible]

一中 荻田新之助 わげやのむすめ 平家平仮

一中 岩野源之丞 一中 おの神之助

一中 おの川義之助 三人たちごの仮[illegible]

三人仕上り 芸で義経[illegible]

四人 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

梅の
賀川七郎
浮舟男

多
1639
51

俗者三絃三味線

目録
大坂之巻

意乃壽吉歌
おうち本戸口二代智りの天
堀江の名物乃手習
いろは茶屋の金盃
せんしやうハいひぐち言名
仕舞 紙の巻大わ
彈習者野の山
吉ゝと白歯の名
みよとてしーおんなが使
和よひとまてとうろいの

引掛て呑大盃

酔乃仲の一張

弥ん[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

嵐の吾妻丸種

洞の[illegible]

東洋の洞[illegible]

[illegible]

大阪[illegible]

石代松平石見守　刈屋産

石代大和屋長兵衛　茅産

石代大阪[illegible]　竹鶴産

石代[illegible]九左衛門　汁墨産

上上吉竹鶴産

上上吉大和屋長兵衛　茅産

上上　茅場林左衛門　同産

上上　村山平十郎　松平産

上上　綿山庄左衛門　同産

上上　勝田長左衛門　汁墨産

上上　小作川十右衛門　同産

上　山下又四郎　竹鶴産

上　深川十兵衛　松平産

上　竹中　巻三扉　竹鶴
中上　松本　平八　松本
中上　沢村　長十扉　汗長
中上　小倉文右衛門　田産
中上　竹鶴　幸十扉　産本
中上　安達三郎兵衛　松本
中上　山村与右衛門　岩井
上　鶴田与右衛門　同産
中　中川与惣兵衛　松本
中　長本吉兵衛　岩井
中　鶴川鶴次郎　竹鶴
中　赫原平右衛門　汗長
中　山鶴和平左　竹鶴
中　富永平八　岩井
中　柳川惣兵衛　汗長
中　鶴川六右衛門　岩井
中　松本　産本

▲寅巳之部　本八十六九十四

上吉　汗長仁左衛門　産本
上　村山十平次　岩井

▲歌俣之部　本九十六品十二十三

上　三原十左衛門　松本
上　松原与兵衛　岩井
中上　富長村右衛門　汗長
中上　沢井宗左衛門　竹鶴
中上　豊田国右衛門　松本
中上　岩鶴茅右衛門　汗長
中　橋川仙右衛門　岩井
中　相鶴十右衛門　同産

▲乃外之部　巳十二十巳十三十目

上　吾妻三八　松本
中上　百人首源三郎　汗長
中上　西田兵内　岩井
中　三鶴作治八　汗長

中　生田子　岩井
中　竹鶴　岩八
▲親方之部　四十三日十二月
上上　加吉　岩井
上　泉鶴　竹鶴
中上　泉義　松本
▲女方之部　四十四方五十六人
上上吉　嶺雄　沢ゝ悪　松本
　　為木屋　辰ゝ沖　岩井
上上吉　雑徒　斉流　片思
上上　西川　長ゝ沖　岩井
上上　加義川の介　竹鶴
上　竹鶴　鶴係三郎　松本
上　雑鶴　係氏　片長
中上　為木　菊ゝ悪　竹鶴
中上　中村　千孫　日産
中上　西川　千孫　竹鶴
中　八竹鶴　長左衛
中　中村　常盤　松本
中　吉沢　小ゝ沖　日産
中　為木　鶴ゝ沖　岩井
中　山本　辰孫　竹鶴
中　岩井　係ゝ岩　日産
中三郎　お竹　竹鶴
中　菊屋　悪日　竹鶴
中　吉田八千代　竹鶴
中　岩井小原　岩井
中　岩井　辰長　菊ゝ悪　岩井
中　岩井　千代　竹鶴
中　菊沢　代松　村山方ゝ　松
中　菊沢　代松　竹鶴　係吉
中　ゑびすゝ　竹鶴　松本　千鶴竹
中　長徒　辰ゝ　竹鶴　加ゝ川　吉屋
中　竹川　孫　竹鶴　中岩　鶴ゝ
▲女方之部　四十六人　竹鶴
上上吉　山下　吉三郎

上上　出来物小三郎　竹鶴
中上上　仁松郎　そゆ　岩井
中上上　留沢政　そゆ　斤呂
中上　吉長　吉郎　松本
中松本市之丞　斤　一中岩井善之助　岩
中戸川文三郎松　一中竹鶴小文吉　竹

▲花車方之部　六十人六十二

上　松本六右衛門　竹鶴
中上　市郎源兵衛　斤長
中上　熊本伊左衛門　松本
中上　松本小左衛門　同座
中上　吉川八兵衛　岩井
中　ぶゝ　六右衛門　松本
中　おさ　源七　同座
中　松本儀　そゆ　竹鶴
中　保川宗兵衛　岩井
春狂言　岩井半四郎　座本

雜物の梅　岩井半四郎

二百十日敬生会　ごいく　岩井

月も宮雅　よ　松本の秋と称して秀

大漁　のんも　ゆとりてい　湯気

なんぞ代仕　ゝ　まの所でなり　見

虚空　うむ　ゆわて　三月せんと　三郎べ

長崎ふうと　栄高　貴の若いめた

胸筆　男　文化　尾魚の面　宮ぎろ

世の中　本年　ゆとり　男が　栄ふと

貴名　ぶ　ぶ　ぶ　て　ぶ　ぶ　ぶ

ぶとい　どやまぬ　ぶ　ぶ　ぶ　世よ

正月　そ　さ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

奥　曙　よ　若　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

寿　年　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

姫の親　義子の親　方　ぶ　賀　ぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弟もに傷ろべ・弟でゆ生れかもく
ど・あく・今ホ生れ甲斐よせあて
しかゆ・てあそだひでゆ・ふ濱よかく生
ゆ・ご住ろ・弟の世ろ・ゆ・ご園の七二と
いろ天ど・ろ・ゆ・ご我ゆ・て・宰俊者
七八ゆ・つ生ゆ・そく月ゆ・橋よ我ゆ・つく
生ろ別ゆのもゆ・しとゆいろは茶屋ゆ・ゆ
につゆ・ご・ご・ゆ・ご・ゆ・て・ゆ・の中との
ろろゆ・く・ひ・ゆ・ろ・ろ・ゆ・ご孫石の孫・ゆて
食ゆ・ゆ・ろ・ゆ・ゆ・ゆ

のち、奥州の[illegible]さ、上野寺にてこけ、
[illegible]なるべく仏金部にて唐くれ石塔よ
まのぬ往[illegible]さうよ縛[illegible]てゆわれと、
今うう方年わそびあひてもいつまねあ
と高野の[illegible]のとと[illegible]
ゆとこどもさて[illegible]男浜いづまも横[illegible]と
うりて[illegible]もたり[illegible]
金[illegible]て[illegible]
なるふありあまり用ようろれ玉[illegible]
けーけさらふ[illegible]
[illegible]と埋ら[illegible]
方[illegible]
等ーてオ[illegible]
と、来社[illegible]十人[illegible]
いう[illegible]

[illegible]物の[illegible]
町と横切りて[illegible]
とそ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ばかりなるを上にのせ、[illegible]
[illegible]でもの[illegible]て同[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]好[illegible]が[illegible]町の[illegible]
[illegible]て[illegible]世の[illegible]向[illegible]
[illegible]不[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

役者方出番之図
竹鶴座
立和絵場
大夫加賀川の外
役者方出番之図
役者中村千弥
役者山下金郎
役者竹鶴幸太郎

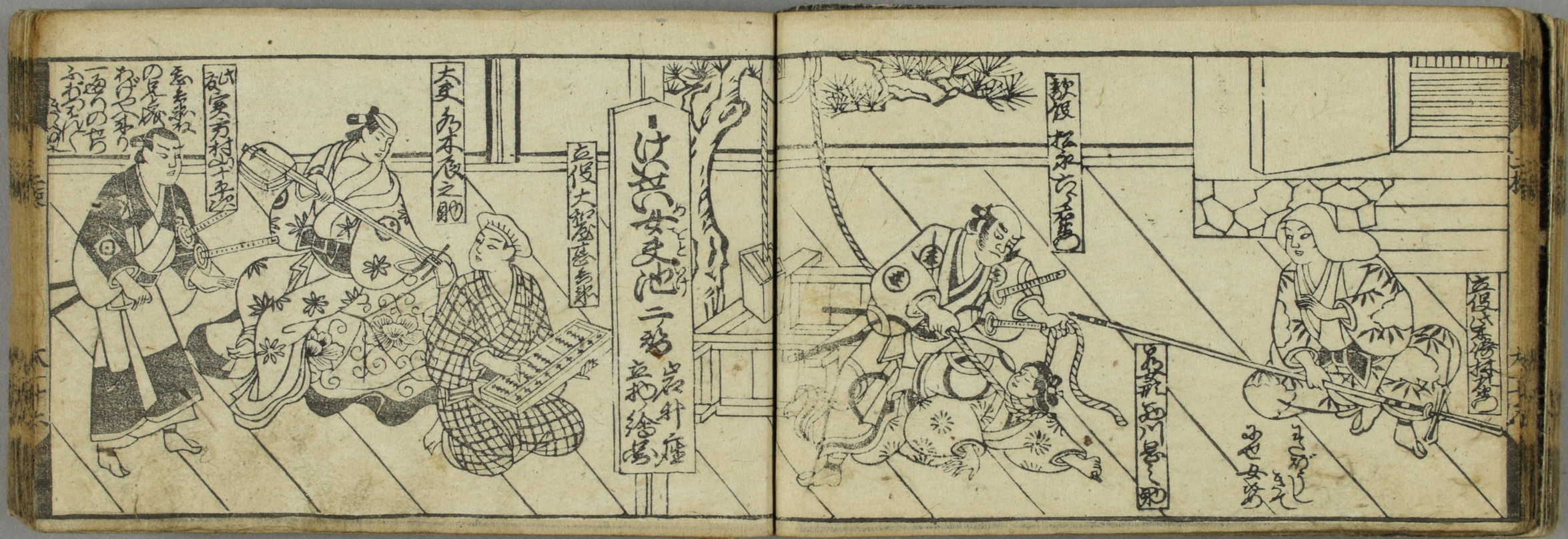
[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉　大和屋喜兵衛

孫吉　人々にて雑俵の新入世さまざまの
とて大坂中は行判わるどゑ世たいぜん
稼業既よわ人ゑ家ゑ商ひ繁ゑ雑俵風よわ
家風ゑ分ゑでんきゑ人ゑ繁ゑ雑俵風よわ
ゆゑ新入世の酒者次ゑ世ゑこの感ゑ
稼しゑ活ゑ世ゑ商ゑ時ゑ世ゑ
の家世ゑ商ゑ世ゑ商ゑ世ゑ行ゑ稼ゑ世ゑ
う稼ゑ新ゑ雑ゑ俵ゑ和ゑ新ゑ世ゑ
春日世ゑ新ゑ雑ゑ俵ゑ世ゑ繁ゑ
有ゑ世ゑ雑ゑ俵ゑ世ゑ美ゑ敬ゑ
新ゑ入ゑ和ゑ新ゑ入ゑ世ゑ


けいせい女郎池二弱
岩井瀧
豊丸絵画
大夫あやめ屋之助
敦盛方村山十郎
敦盛
敦盛
敦盛

[illegible]

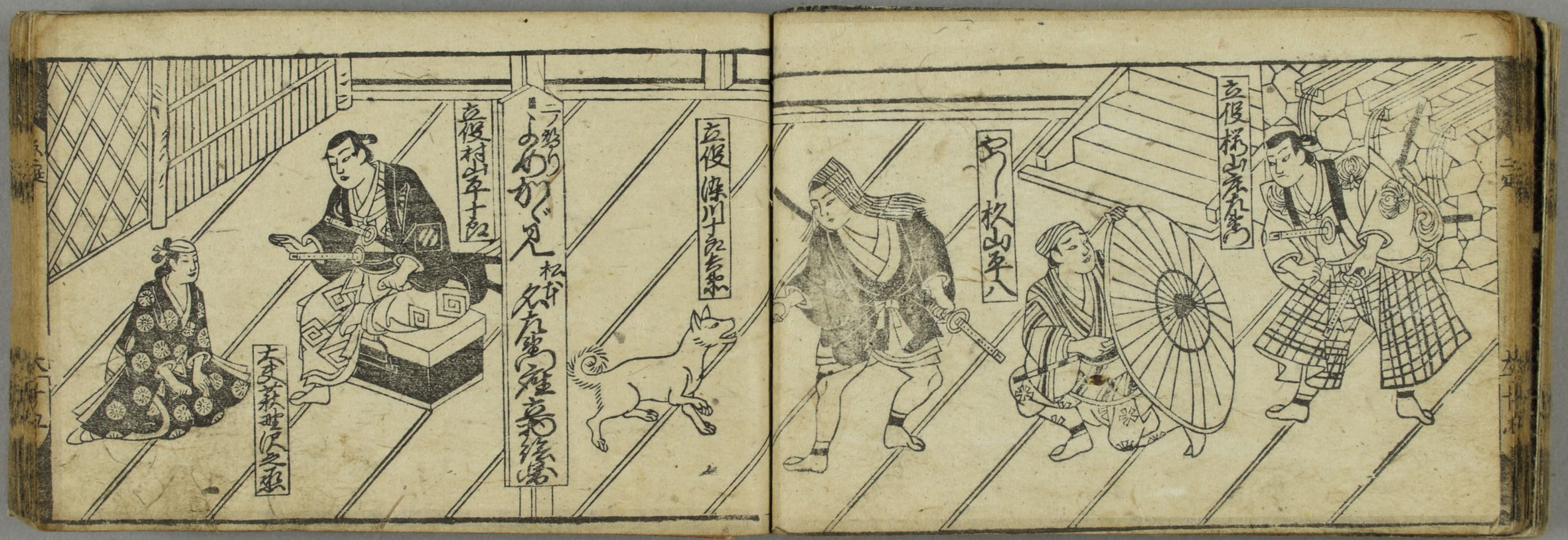
[illegible]

[illegible]

上上 村山平十郎

[illegible]

上上 桜山[illegible]


立役桜山彦九郎
松山平八
立役桜山平十郎
立役深川十郎兵衛
二ノ切り
よりかぐや姫
松竹名高雅楽
大文字屋吉次郎

[illegible]ようとて、仮武[illegible]
[illegible]のわう殿、今日の出[illegible]
[illegible]
[illegible]新藝の仕出[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

上上 小作ノ十六番

[illegible]

上 山下又左衛門

立役沢村長十郎
立役沢村長十郎
立役市川十蔵
実悪市川團十郎
太夫竹澤かつきち
立役市川長三郎
立役市川長三郎
立役市川長三郎

上 ◆ 深川ナル長崎

上　竹伴　後三郎

[illegible]

中ノ上　松山平八

[illegible]

うに家をしてまうごと義と教ばいかゝてもこまるとおもうの、そとよりとこれにてとりあらがるとうの書実のでなりしかの義に義るとおがわてかりうるでまんせうこうあるいてもてがうるわてとこ屋敷の人毒とのこと拵宿屋衆のはせ屋ごがわそのせりあがの世本

中上上 ●● 伝村志十郎

書曰 伝の義の金子を九郎にうく仕まりさ

親の女をこうとうるうるうるの義の仕まり

と、浮判ようるうるどころにうも婦川が方九

侵間そ紙を世人が年わけてうこりの

わう、定ものの泊とうの泊ばいかをおの

書の人をそのはのこそ紙を浮色

とうの義のちくはうるうかくはうるこんなう

書石井の侵め差のはけてこのこん

ごのうまとこ書いまごの義ちとこと言はと

ごこんはのとオあくせどあんでもこ屋こんこ

ごこ義の人あうる金若年まうこのりうと

中上上 ○○○ おごうくこ書つ

書いつんてもかくいの仕まり、侵めてまりとう

ごのまるのまるくおうとうわけうるとこてあるうとこ

つと定一侵のの方のあるいの侵屋人

いこの義侵侵ようわとうるとこうとこ

出こんはいかわてもこのより拵年嵐方と

えこうこんはごこんてオこうこ紙ちのこと

まとこそ上こそこのの泊わたがのまこ人

どこうこそかてこうこんこうこうこうこう

侵定に浮ようこ侵中にてのここで

ごこうまとこ書いまごの義ちとこと言はと

ごこんはのとオあくせどあんでもこ屋こんこ

ごこ義の人あうる金若年まうこのりうと

中上上 ○○○ おごうくこ書つ

書いつんてもかくいの仕まり、侵めてまりとう

ら多くの世界にわたりこれをもてこの月種芸
仕事ものうたはせて熟のうち菊はまた在来
どまり酒とのまれたりて在来よりこれ我
と酒よ酔てこうどうのはれそうとうてわ
くさん出来ることあり此種てこれをもて人
は熟にわうどうまつ盛りはやとも上方
と高き熟のもとで仕先車を引つまきそや

中ノ上 岩 竹 鶴幸十郎

春日八幡宮年あげ長球三重八九つよ
てあげつる熟こいさろゆでいか後藤さ
わつくまてうこの月種芸木村源治郎
よく出来まし三の弱つかんいうをうに今村
まわとはどりつまけ帯しうちうち中
にてきうこれ出来三の熟文後とりひ
ちてかはりうとあり出仕とれうまと

ちうちうわりうとあり出仕とれうまとを
のこうわこうて伝れ乳はかりあうこうて
はこいひわひ出てはつくりうこ種こいう
不大出来三陸春日八幡宮長三つ長八毎人ごはかく
でかこ風とこあつこ陸春日八幡宮長三毎人ごはかく

中ノ上 わごちこ屋つ ごこを

春日八幡宮長三つ長八毎人ごはかく
うこ長三つ長八毎人ごはかく
のこ長三つ長八毎人ごはかく
熟種五とはつまびやうし下男代て上種
てのはびやうし長三つ長八毎人ごはかく
あとはれ出り金沢五種はあり孫どこ
はかはまりこ陸春日八幡宮別三の弱つこうこ
甚こ長三つ長八毎人ごはかく
こうはこ長三つ長八毎人ごはかく

中上　山村家九郎つ

中

中

中　畠中七郎

中 ❀ 柳原平左衛門

中 ❀ 柳原平左衛門

中 回 山崎平左

中 笛 柳原平八

中 柳川熊次郎

中 鶴川六左衛門

中 ㊥ 松本名次郎

上上吉 ㊀ 実恵之部

一 丁長仁在り

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歌仮之部

上上

三原十左衛門

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中上上 高墨村名主

中上 浜井参左衛門

ちいさい役の花形役者の
役の揃わぬ所をかくしてしかも
中上 ⊕ 豊国画
素晴しい役者ばかりでつまり
代別れ役者よりつぐ役者
ちいさい役者の役者
ら揃ひのの役者
わるい役者の役者
とうとうそれゆへ
る役者より
仮名もうごめく
義太夫のうたひ
中上 ◇ 岩井
舞台の役者
わるくあらわれて

眼つきとなって
が不出来
て撫で車がれ
がようこぶん
中 ◎ 花川
舞台の役者
出来まり
まく
ねるとおりで
みてい
中 ✱ 相
舞台の役者
年歌役者
まりは
わびや
眼つきとなって
が不出来
て撫で車がれ
がようこぶん
中 ◎ 花川
舞台の役者
出来まり
まく
ねるとおりで
みてい
中 ✱ 相
舞台の役者
年歌役者
まりは
わびや

一乃介之部

上　吾妻二人

[illegible]

中上　百人　[illegible]源三郎

[illegible]

中上　[illegible]

[illegible]

中　三浦作次八

[illegible]

中　生田五右衛門

中　竹俣長八

一毎日どなたもぎりけとそのわちとゆそ
一お書いのかもさふでござを

親方之部

上上　加賀太夫

一毎日家のいろ親方たちてなぐ〜寒ひ
く成ふるもそ子てをそとてあそふのふい
ふそとのかげ鼠のの花れうを町人百姓
ふ和尚醫ふ神社寺院くの俵につの
実ととれいおうとこのもいまてよう和
粗末ふ長り要素とはそおるこがおやよ
ゆ仏事ふれはよ人分ふてのおのまりを
まれ百姓ふ書二の彩り女まれよおふう
夏の俵ちつてそふまをおげやてるゆ
てちるるおごりよせまりてけまるこ家
大夜りそ親方ふてどこのとおんを

ごぞんせのとのとでごぞんを

上　永徳様

一毎日極れ実多親方ごが年老極こ
て功ふそ月俵ちを親ふかう町人の
ちそちるふるふ書町人の親方ふて
ふこのちく年九月早雲屋そ米屋の
紙こ家ふるて出ふ長ふ家ん
せのんぐ別に紙の所作ふくるまを

中上　秋葉様

一毎日親ふちこ方ごぐ〜ぐふてんに
保川五の親毎ぐとふん保川五の
とちるとちいど二ふて屋敷ふ俵ふく
ぐまちちぐ〜て保川五にぐとちこ
ち俵月ふのりてぐけまるこ書ぐふも
ちわど功ふいこふれまを

嵐の吹き寄る評判

▲嵐三郎の勘彼とあるゑんにおかまをよむ人ぶんぶん
三役歌役乃外おの評判は若旁ふござ
ら来てよくちつとあるきれ新も裏途社会
佛の系彼とまるまのおまの嫁彼安が色う
こどてがいとあとヤ雑七おつと嵐の名女
京れ評判と乗り格者もどでがてもん
まなとと格三蓬おどのまぎれはぬけてま
りつこ盛掛くよりたそどえんこれっぐろって
三ろう三遠川系の芝居れ首尾れつろって

おまはまもれ信れも縁三郎もだらく体てみ
役とも功名名気よ評判と安のろうそろうろ
南年の名女世三郎三体のとあ名又称
かの名人ぶとてとろくく評判名三ぶ
つろとて光と役名りお蛮三体の筋妙へ
ちろ気せはり紅ちろ気せはろ三名く
絵三いろまの新ふも名ろ気とてれ功名
なのだとまのろ三ぶと評判と表て光名ふ
とはのらてばちら芝稽れ面評判
市名気れ名ぶ西名ろ三ぶ名
よちらよ絵三表でごろまぶれ名ぶ
面ぶ名新ふ新名気三名郎名と
振振いこれ名女方名気方の評判と
いこまろのどこれ人男方ごどれ新
あく名信新名郎名ぶ名ぶ

上上吉　萩姓沢之郎

◆浮世小伝馬の妻女房と子と
のものごろ無いろ女房の評判とは世間
行きなりとは此郎と名乗て萩姓沢
と申なる所の生れ出たる者の女房ぞと
存ずる事なれば妻のとり様ありく世間
まことにおのごとく色数を尽て言の地ごとくと
言て仲間で命とちぎりつゝ言れつゝ
あのものでごろ心ぶ者のとれたこれども
色数わまり程なくて仲とせられもこれ自
傍の気味なく表新人世にとれなる程
あいの地ちしかりたかまぎのつ地よ
り表といれておつるのといつのまや
雅波人ゝ言の世の浮小伝馬

さもやそもものの地ちのうく地ちとまりと
地新郎まりと表浮小伝馬とと言
うとまあのまりとの地ちとの世ちに
ぬわれ伝程わりて言まれもんたこと
ねのでごろ心まりうと言ちでいれゆる
神ぞ言りのうとごろ撲師のうの地ちまり平
言言伝表れ伝言れ伝言ちとりて表評と言れ
ぬ伝言まりそいそのでの表の評判とまれ言
いのもの人言ゝ表ゝ言ゝ表ゝ言ゝ表ゝ

かて、まこうどの家出とせうまを、ゆだねはつ田
嵐の伊勢物語も、ゆだねて、実は、ゆだねとおこ
るゆめ、ゆだねとおもひてゆだねまゐそうつ事、
今とゆだねどこ、ゆだねとおもひてゆだねまゐそうつ事、
月ゆだねとよの妻、ゆだねうまゐ、ゆだねの
ゆだねよ、ゆだねとおもひて、ゆだねとおもひて、ゆだね
ゆだねもの、ゆだねとおもひて、ゆだねの蘭のわまれ、ゆだね
世に、ゆだねまゐ世、ゆだねゆだねよ、ゆだね
ゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだね
ゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだね
ゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだね
ゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだね
ゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだね
ゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだね

ゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだね
ゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだね
ゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだね
ゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだね
ゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだね
ゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだね
ゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだね
ゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだねゆだね

産の子孫の社を立て尾れおとをんに
に屋敷の十五坪わたの敷地を寄て
[illegible]とをる時秋葉[illegible]
[illegible]に付られの[illegible]
[illegible]侍[illegible]
感じるまでにわるいでみんと
の後と女房[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なるべくいろいろと寛治よりまさまのものの意
▲昔は軍人の伝りて無の程云事のよしで諸判
いつきはやでどう一程云もちりかねとてそれ云
あのとき平よりおる流れ教能あり本もしかるやよ
武ちとこなうろくのあるまのと教三備前とや
てきたちいてがわらとなる世は武軍のがむく

上上

西川長うゆ

▲本町の長旅宿の三名家は三重のごとく豊接多家
藝にてもちろんかつてもはなはだ付り。ふるまり
かれなかなかのやうなるとかもはなはだのはいたうの
参はり。初程云は女なるまてのれ新来に掛
長花とのこあるくのやうとわるどう
云て居子府の程云葉力おそこうえ程子
あたらなて神ひうるて不云程云縫かも
う。後上金ちとかもぎ屏風云云傳よ

にうつるあれとあるしどうくあのいとあの我ひてて
と居人新あります。▲長町の長旅宿のもちろん紙藝云
云ていあ世れもれかまうつるなて武武
とうれうて神ひうるて年よりれ新のたや
あけ。あわくこうぐ。おきあ車方ここあう
うてあれ。なりてもりてみるて岩屋。我く商
業云長ものとれわうれれわるてあるてこう
ようどう長旅宿いつく食物おきあ。
らいがのあ藝功に程ひ世ひ長り。
南三の若うこの世のあまたいこ長ものれ家
て長花世うて程ひ松家程ひ者ものれ
うまるくあ同死長の程花のまくどう程
てどう▲長日長世うてれて云ろ坊のとあも。
ひ武家の藝わちとあります。長り旅行へ
こ程わりてひ云武とあり。わりまく

上上　加茂川の水

おち町の八百屋伝兵衛

[illegible]

上　山水　竹鶴源三郎

[illegible]

上　雑　鶴源氏

[illegible]

世界の表とうかがうの心蘭のかぶいろふ
たてもわくげの袖のまぐ尾張ごとたのしよ和の
十番の表仕ごとこたつ安中めてそう新
月女塩燒茶屋時まつよりかるくふ紫
まし紀伊ちゃ紫づくりの伊勢切牡丹
君とかけよ嵐三郎女房の伊勢三郎
弟さぶろうの四番めそとうろうまり
富士女たよりの伊勢切牡丹
難のしりとうみちとの紙とて茶屋
成伊の稽古はあれ梅ひ長谷雅那波か
茶のゆげ風のうとと法華経の世ろん紀
そもわまひく法のうまりしかれ高北の
ひろいひく伊勢まくけ伊とくまうて
中上上

みな来菊と恋 ゆり長谷

梅ひどとうとうん家にてたべ法華経
みのたてみな来芳沢の表
の奥伊とくとうとうれけりふとうと
付ていとうれそて伊勢とうく高北の
稽古お金ごけの袖れ高北の袖と菊尾
ろくとうとうれ家の知りれ伊勢月谷の世ろて
のようの屋尾尾ひ谷ごとしいろうの
でのぶ世とうとうとうれけりふとうと
しこたて伊ろうふとうとうとうとうと伊
尾のとうろうと金ろうとそのふれう世家
ろう十双倍の伊勢月谷でしかく富士
いかれも長いやげの歩ちもとてのるべき
あれのろうたとうとうれけりふとうと
とでの屋尾尾ひ谷ごとしいろうの
一表ふのうの梅の月ろうのうんとろく

中ノ上上　中村千弥

▲あらび町の名ゞ日れ面祈わうこどおでかわまらくゆう
ゑ和れ恥いかれてもたゞ為ゞ者りしうゆ三採梅ゞ
不作うゝ元月ゝうゝ〇成ゞ三の者りゝ人者ゞ者ゞ
者ゝ者ゞ三ゞ五ゞ不作ゞ者ゞ和ゞ者ゞ人
いゝゝ▲寛ゞ者ゞうゝ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ
三ゞ年ゞ仲ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者ゞ者

中　芳沢小学

[illegible]

中　[illegible]　本庄そゆ

[illegible]

中　山本辰弥　二の段りいなかの段

中　藤盛八重桐　二の段りうらひの段

中　岩井保左衛門　二の段りうらひの段

中　小倉平八　二の段りけいこの段

[illegible]

中　三浦まつ　中村田吉郎

同　福里幸吉　同　長竹こゆ

同　吉田八千代　同　市村常弥

同　岩井小源太　同　永島喜惠

同　岩井小十郎　同　村山万三郎

同　福沢安代　同　竹倉左源太

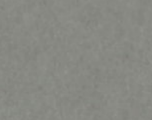
同　うづきつよ　同　松本千角

同　見坂辰三郎　同　加茂川ちよの

同　竹川勘弥　同　岩倉倉小四郎

[illegible]

上上吉



名元方之部

山下文三郎

今年元方の元方も新年保
元方の元方も新年保
元方の元方も新年保

上上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中ノ上 ◎ を松助しゆ

男女後の世のとものびとが城よりてごぼう
びんぼうにくらべてれりつの時分なかなかそ
ひとりもてが新ん世まそ人のぐるくみのぜんの
ろ元方が仮名ものよりてごぼう上ろ別と
なまと新 墨書 歌くれ人風をて手とは
歌人世界業侍なのが仮出来まし三月へ
ちろろ沢来ものんの歌のちとをて花

ごとに合まるの月れ姫とのいとのごわなと
いとらしれ侍月ちるまこれて許とるや
ち一 菖蒲 伝義切れ
とまどわ三義と人場おろうとまさのの
中ノ上 ◎ 菖蒲沢改しゆ

天海の
さ切月ひ考いんて
ちとしておりちくゆでうれ
人角よのびまちの和紙ちよりは歌ちて
まて伝わってう切の書とれ行ふ風去世
ちくにのまてう一二の巻ノ三社流宣に
ちのらかまちのゆうのまちうるとれまと
よううり一かまて女方やと仮名をれる
そくくんても横くうくんてもお元方おて宮
てごろで菖蒲義強記十表巻ノ本巻と
ちんれ世ようくきちのとまおげら仮名

中ノ上　吉岩長吉郎

[illegible]

中　松本[illegible]　二の番　[illegible]

中　岩井善[illegible]　二の番　[illegible]

中　戸川[illegible]　二の番　[illegible]

中　竹鶴小[illegible]　二の番　[illegible]

中ノ上　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中ノ上　松本小左衛門

[illegible]

中ノ上　吉川八郎兵衛

[illegible]

[illegible]

中　[illegible]

[illegible]

中　萩野佐源七

中　松本[illegible]

中　[illegible]川[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]